

野洲川MIZBEステーション 運営・利活用方針

2025.11.13

目次

| | |
|-------------------------|----|
| 1. 背景 | 3 |
| 2. 目指すところ | 6 |
| 3. 運営の目的 | 7 |
| 4. 施設配置 | 8 |
| 5. 空間・施設を設計する上で大切にしたいこと | 9 |
| 6. エリア別の運営・利活用方針 | 10 |
| 7. 運営体制のイメージ | 16 |
| 8. オープンまでのスケジュール | 17 |
| 9. 検討経緯 | 18 |

1. 背景

1. 野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画の国への登録

野洲市では、国土交通省近畿地方整備局と連携し、地域活性化や賑わいの創出に寄与し、災害の際は水防活動拠点として機能する「MIZBE ステーション」と、河川空間とまち空間が融合し、賑わいあるまちづくりによる地域活性化に資する良好な空間形成を目指す「かわまちづくり計画」を一体とした、野洲川 MIZBE ステーションの整備をめざし、野洲市MIZBE ステーションかわまちづくり計画を作成しました。2024年に「野洲川MIZBEステーション」「野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画」として 国土交通省に登録されています。

《かわまちづくり計画》とは

地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各自の取組を連携することにより、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かした地域の賑わい創出を目指す制度。

野洲川MIZBEステーション平面図



出典：野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画書

《MIZBE ステーション》とは

河川防災ステーションの上面などを活用した平時における市町村等の取り組みにより、地域活性化や賑わいの創出が期待される河川防災ステーションを「MIZBE ステーション」として登録する制度。

2. 野洲市総合計画・協働のまちづくりとSDGsの実現を基本姿勢

第2次野洲市総合計画では、めざす将来都市像として「多様な人々と多彩な自然が調和した、個性輝くにじいろのまち・笑顔あふれるにじいろ都市やす」を掲げ、その実現に向けた基本姿勢として、市民、企業、団体等と連携した「協働のまちづくり」・「SDGsの実現」を進めていくことが位置付けられています。

めざす将来都市像

『多様な人々と多彩な自然が調和した、
個性輝くにじいろのまち』

笑顔あふれるにじいろ都市 やす

基本姿勢

協働のまちづくり

市民を中心として、行政や事業者、自治会等各主体とまちづくりの目標を共有しながら、お互いを尊重し、信頼し、協力し合う「協働」によるまちづくりを進めます。

SDGsの実現

将来にわたって持続可能なまちを築いていくという横断的な視点のもと、総合計画の各分野において、SDGsとのつながりを意識しながらまちづくりを進めます。

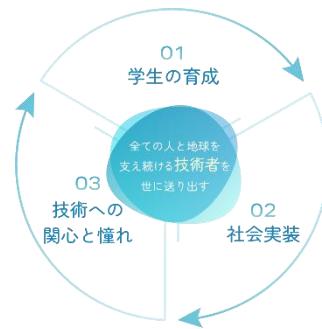
出典：第2次野洲市総合計画【改訂版】

1. 背景

3. 滋賀県立高等専門学校の整備・2028年4月開校

滋賀県初の県立高等専門学校が、野洲川MIZBEステーションに隣接して整備・2028年4月に開校が予定されています。学校の方針として、地域産業・社会への貢献や、企業や公共団体など、多様な主体が関わり合って新しい発見や学びを得られるような取り組みを目指した学校です。

すべての人と地球を支え続ける技術を磨く学校



目指すのは、「価値創造力」、「専門性」、「実践力」を兼ね備えた学生の育成。滋賀県立高専では、この3つの能力を培った学生が、新たなモノ・コト・サービスを生み出して社会実装(注釈1)し、次の世代を担う子どもたちが技術への関心と憧れを抱き、将来にわたり「すべての人と地球を支える技術者」を世に送り出すことにつながるという好循環を目指します。

また、技術者育成・交流の場の中心として地域産業・社会に貢献し、学生だけではなく企業や公共団体など、多様な主体が関わり合って新しい発見や学びを得られるように取り組みます。

(注釈1) 社会課題解決のために技術や研究成果を応用、展開していくこと

概要

- 学生数：120名／学年
- 5年制
- 地域特性を活かした学び
 - 企業等との連携・共創、異分野の学び・研究との共創を構築
 - 野洲川MIZBEステーションを整備することから、防災・減災、自然環境保全など、国・市とも連携した学びを実現
- 4つの専門コース



キャンパスのコンセプト

- 地域に溶け込み、地域から誇りと愛着を持たれるキャンパス
- 現代的・実質的・コンパクト

設計上の主なポイント（一部抜粋）

- 立地を生かした学校施設
 - ・「近江富士」として親しまれる三上山、周辺森林、野洲川を望む環境において、校舎棟の教室や図書交流・食堂売店棟のテラスから、三上山や野洲川を眺望
- 学習環境
 - ・ 地域から誇りと愛着を持つられるキャンパス
 - ・ 環境への配慮
 - ・ 木のぬくもりのあるしつらえ



※グラウンドは国有地に野洲市が整備予定

出典：滋賀県立高等専門学校WEBサイト

1. 背景

4. 河川防災ステーションの役割

河川防災ステーションは、災害時（洪水等の発生時）における緊急復旧活動の拠点となる施設です。市町村等が水防活動を円滑に行う拠点となる水防センターや災害時に参集する水防団員、国、市など関係機関の担当者が使用する駐車場、復旧活動を行う重機の運用に必要な施設を整備し、堤防決壊など、被災箇所の復旧に必要な資材を備蓄します。



水防団員による水防活動（排水作業）



水防団員による水防活動（月の輪工法）

〈施設整備について〉

- **水防センター**：水防活動時の拠点（司令部、待機場）、水防資材庫
- **駐車場**：水防活動時等の作業員の駐車場。
- **ヘリポート**：ヘリコプターの緊急輸送時の離着陸
- **車両交換場所**：資材運搬車両、重機の回転場、備蓄資材搬出の作業ヤード
- **車庫**：ポンプ車、照明車の車庫として使用



〈備蓄資材〉

- **土砂**：仮復旧堤防、堤防復旧に使用
- **根固めブロック**：復旧初期に必要となる決壊箇所の羽口工に使用
- **雑割石**：1次締切（荒締切）に使用
- **鋼矢板**：2次締切（鋼矢板二重締切）に使用

2. 目指すところ

野洲川MIZBEステーションは、野洲市MIZBEステーションかわまちづくり計画、市の総合計画や滋賀県立高等専門学校の整備などの背景を踏まえ、野洲川MIZBEステーションができることで、子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなるために、『市民とともににつくる、人と自然の好循環を育む「学び」の拠点』を目指すところとします。



野洲川MIZBEステーションの目指すところ

市民とともににつくる、人と自然の好循環を育む『学び』の拠点

①出会い

野洲川と多様な人に出会い学ぶ

- 市民と**野洲川との接点**となる場所
- 市民同士の出会い・交流・賑わいを通し学び合う場所
- 外の人が野洲を訪れ、野洲を知る、野洲の人・自然と交流・楽しみ・学びを得る場所

②自然

野洲川の自然に学ぶ

- 川と森の自然を体感し、学び、育む場所
- 自然・環境・生物などの市民活動の拠点となり人材育成、学び合う場所

③防災

自然の営みと防災を学ぶ

- 森の管理、川の安全・安心、身近な**防災を学ぶ**場所
- 河川防災ステーション・地域の防災教育拠点

野洲川MIZBEステーションができることで

子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけなくなる

3. 運営の目的

野洲川MIZBEステーションを「市民とともにつくる、人と自然の好循環を育む『学び』の拠点」とし、子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなる野洲市を実現するために、次の3つを目的として運営することが大切だと考えています。

〈目的1〉
人と情報が集まり
多様な活動の輪を
広げる

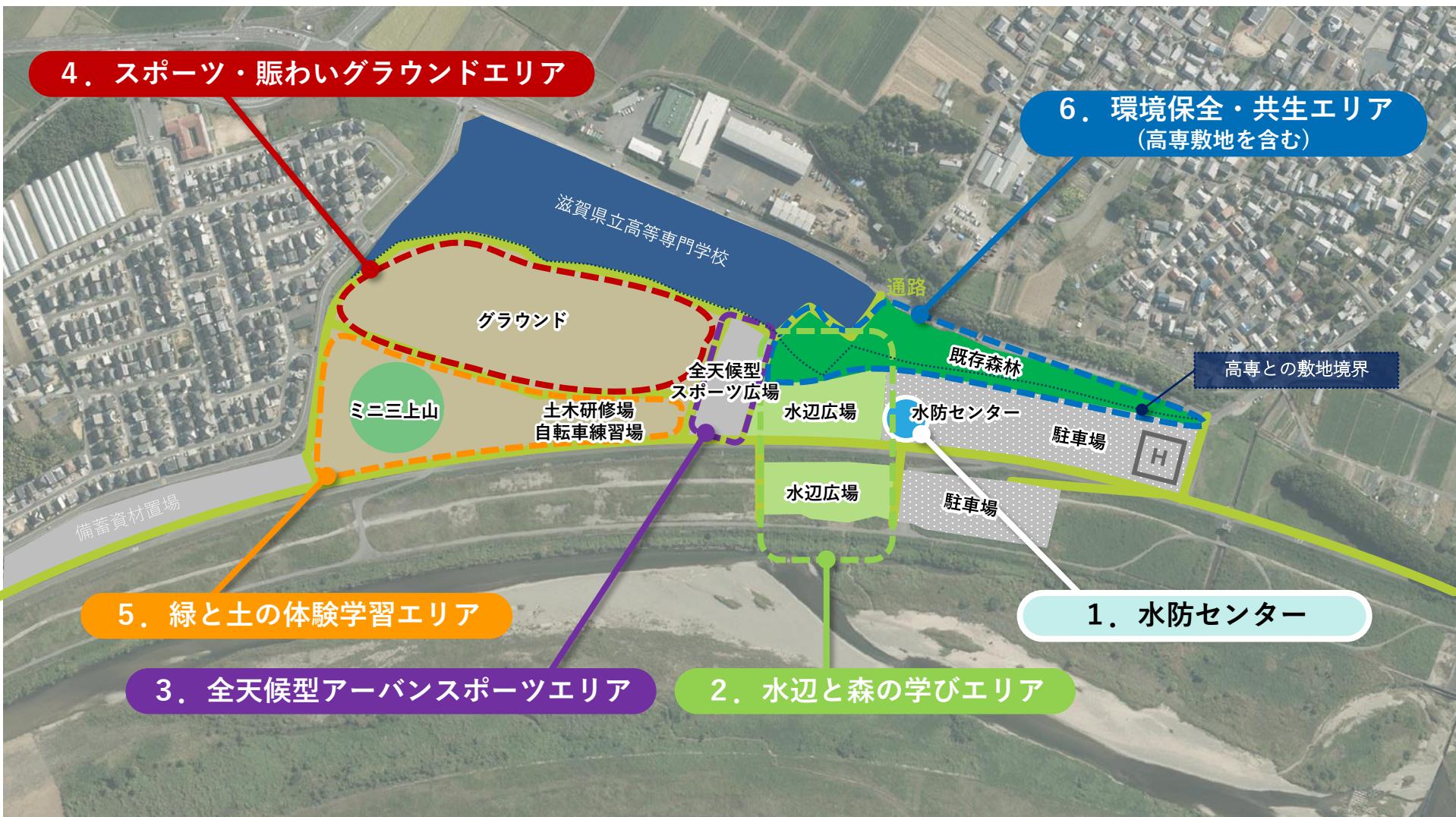
野洲川MIZBEステーションができることで
子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなる

〈目的2〉
自然や防災、スポーツ
を通じて学び
次世代を育てる

〈目的3〉
ここにしかない
環境や特性を活かし
魅力をつくる

4. 施設配置

野洲川MIZBEステーションは、防災拠点としての役割を担いながら、日常は市民が集い『市民とともにつくる、人と自然の好循環を育む「学び」の拠点』として、それぞれの場の特性を活かしたエリアを配置しました。



5. 空間・施設を設計する上で大切にしたいこと

野洲川MIZBEステーションを活かすことで、子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなる野洲市としていくために、ハード・空間を設計する上で大切なことは、次の8つのポイントです。

空間デザイン

- ユニバーサルデザインで子ども、大人、高齢者、障がいの有無に関わらず、誰もが使いやすい空間設計
- デザイン性が高く、野洲市民が誇れる魅力あるランドスケープ・建築設計（水辺の心地よさを感じられる空間、行ってみたくなる空間、撮影やロケーションに利用されるような魅力ある空間 等）
- エリアの往来がしやすく、野洲川MIZBEステーションとしての一体感があり、複数のエリアを一体的にも使えるような空間整備
- 夜間の利用を支える適度な照度と魅力ある照明・ライトアップ計画
- デザイン性が高く広いエリアを回遊しやすいサイン計画

設備・機能

- 雨天時や気温を気にせず使える十分な室内空間を確保し、雨天時対応や熱中症対策のための工夫がある（大屋根、緑陰、ミストシャワー等）
- サスティナブルな設備を採用することで環境にもコスト面でも負荷を軽減する（流水の活用、自己処理型水洗トイレなど）
- AI、ICT、IoT等のスマート技術活用による環境負荷の軽減や、効率的な運営ができる

6. エリア別の運営・利活用方針

1. 水防センター

方針

さまざまな人・団体等が集う活動の拠点、非常時には水防拠点としての役割を担う、MIZBEの学びの拠点施設



事例：泉北ラボ（カフェ、コワーキングスペース。まちライブラリーなど）
<https://semboku-fund.org/about-sembokulab/>



Photo: Natsumi Kirugasa



Photo: Natsumi Kirugasa

「やすがわMIZBE基地2025」水辺と
森の探検スクール
防災食ワークショップ

● 交流を促す場がある

- 学校行事などにも対応できるよう、雨天や暑さ、寒さを気にせず使える100人程度の規模の広い室内スペースがある。
- 広い空間を必要に応じて仕切ったり屋外と一緒に使うたりと柔軟につかえる。
- 素敵な空間で飲食機能がある。

● 活動を支える設備がある

- テーブル、椅子が十分ある。プロジェクター・スクリーン・マイクがある。
- 自由に使えるWi-Fiがある。
- ワンタッチテントがある。
- 道具を保管する広い倉庫やイベント時に荷物を置いておけるバックヤードがある。
- 授乳スペースやおむつ替えスペース、キッズスペースがある。
- 放送設備や緊急気象情報の表示板などがある。デザインされたサイン計画。
- トイレを外からも利用でき、他のエリア利用者も使える。

使い方アイデア

- さまざまな人が講座やワークショップ、フリーマーケット、活動場所、練習場所などに使うことができる。
- オープンスペースなシェアオフィス、コワーキングスペースで野洲の団体がつながれる。・気軽に交流できて、会議もできる。
- 読書やカフェなどちょっとした休憩スペースとして気楽に過ごせる。飲食物をテイクアウトして外でも過ごせる。
- 企業やセンター職員により市民への防災教育（テント設営・非常食体験・災害体験・歴史学習など）が行われる。
- 周辺企業や高専と連携した取り組みを実施できる。・3Dプリンターを常備、AIロボットを活用など最新テクノロジーに触れられる。

6. エリア別の運営・利活用方針

2. 水辺と森の学びエリア

方針

森・広場・川の一体的な空間を活かし、自然との触れ合い、環境や防災について実践的に学べるプログラム等を実施し、野洲川の自然を活かして学ぶ



● 森・広場・水辺の活動のための設備がある

- 森・広場・水辺がつながり、移動しやすい設計になっている。
- 川の近くに水道がある。・適度な緑陰があり、ベンチがある。
- ライフジャケット、救命胴衣等の道具がある。

使い方アイデア

- 野洲市や周辺地域の小学校・中学校・高校等と連携し、学校教育の体験学習の場として利用できる。
- 防災の学びにつながるプログラム（着衣泳、水の中で歩く体験など）や水上安全講習（ライフジャケットの着用、安全に川で遊ぶための講習など）を実施できる。
- 自然観察、キャンプ体験ができる。
- トレーニング機器や遊具があり、自由に使用できる。

など



事例：うしづま水辺の楽校、牛妻地区かわまちづくり

<https://lovely-tomato.wixsite.com/papa007>

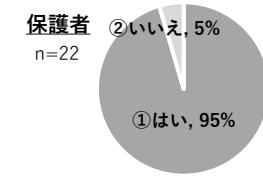
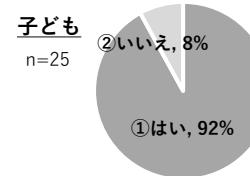


野洲川北流域自然の森、
野洲川MIZBEフィールドワーク

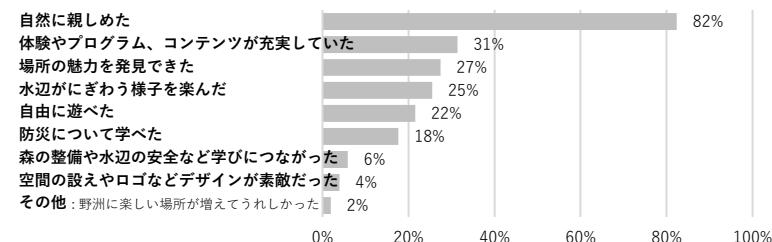


「やすがわMIZBE基地2025」
水辺と森の探検スクール
琵琶湖河川レンジャー
・ライフジャケットの着用方法
・川に流された時の姿勢を体験
・水辺の生き物観察

Q.もっと自然あそびをやってみたいと思いましたか？
(やすがわMIZBE基地2025「水辺と森の探検スクール」参加者アンケート)



Q.どんなことが満足度につながりましたか？
(やすがわMIZBE基地2025来場者アンケート) n=51



6. エリア別の運営・利活用方針

3. 全天候型アーバンスポーツエリア

方針

アーバンスポーツを中心にスポーツに親しみ学ぶと共に、全天候型の広場を活かしたイベント等の賑わい・学び・交流を通して学ぶ



事例：神戸みなどの森公園
<https://kobe-machiguide.com/park/minatomomori-park/>



事例：アーバンスポーツ(都市型スポーツ)施設、太陽工業



「やすがわMIZBE基地」キッズスポーツ教室
Photo: Natsumi Kinugasa

● いろいろな使いができる

- 移動式のステージやコートがある、観客席が作れる
- 控室、救護・ミーティングができるトレーラーハウス
- コンテナ式のシャワー・トイレ
- 移動可能な仕切り

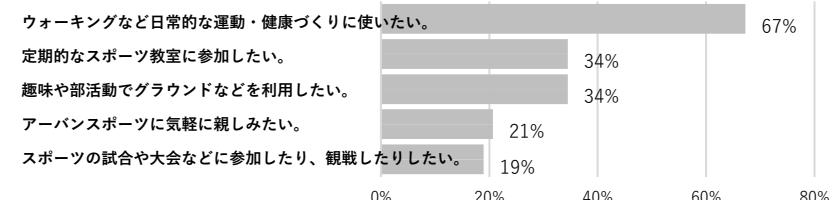
● 利用しやすい設備が整う

- ナイター照明手洗い場がある
- 電源がある
- 用具を保管できる倉庫
- 屋根がある

使い方アイデア

- 60組程度の3on3大会が開催できる。
- 楽器やマーチングの練習に使用できる。
- ニュースポーツやレクリエーションができる。
- スポーツ設備を移動させて、空間をイベントに利用できるなど、大屋根の下が柔軟な使いができる。など

Q. あなたは「野洲川MIZBEステーション」をどんなふうに利用したいですか。
【スポーツ】（やすがわMIZBE基地2025来場者アンケート）n=59



6. エリア別の運営・利活用方針

4. スポーツ・賑わい・グラウンドエリア

方針

広々としたグラウンドを活かし、様々なスポーツに親しみ学ぶと共に、広いフィールドを活かしたイベント等の賑わい・交流を通して学ぶ



● いろいろな使い方ができる

- 観客席が作れる
- 控室、救護・ミーティング・更衣ができる
- 移動式のバックヤードなどがある

● 利用しやすい設備が整う

- ナイター照明・電源がある
- 芝のグラウンド
- 用具を保管できる倉庫がある
- 自動ライン引きなど利用しやすい設備

使い方アイデア

- 年に1回の夏祭りや3万人規模の花火大会や10万人規模の音楽フェスが開催できる。
- 年に4回の〇〇市、〇〇まつり、〇〇大会のようなものが開催できる。
- 日常的なマルシェが開催できる。
- ペットも一緒に楽しめるイベントができる。

- 多世代が楽しめる市民向けスポーツ大会を開催できる。
- 50~100人規模のスポーツ大会を開催できる。
- スポーツ教室に利用できる。
- 近隣の学校が体育祭などに利用できる。
- 気軽な健康づくり（トレーニングやリハビリなど）ができる。
など



「やすがわMIZBE基地2025」マルシェ



事例：イナズマロックフェス
メインステージ ©イナズマロック フェス実行委員会



「やすがわMIZBE基地」キッズスポーツ教室

Q. あなたは「野洲川MIZBEステーション」をどんなふうに利用したいですか。
【にぎわい】（やすがわMIZBE基地2025来場者アンケート）n=58



6. エリア別の運営・利活用方針

5. 緑と土の体験学習エリア

方針

土取場を活かし、ミニ三上山や土木研修場、スポーツ広場を使い、自然や防災について体験型で学ぶ



事例：ラジコン式ショベルカーの操作訓練、高松市
<https://www.ksb.co.jp/bousai/news/n-201125/>



事例：椿グリーンパーク、三重県
<https://tsubaki-gp.com/info/mbx>



事例：ドローン練習所、東京都荒川
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC14AR40U1A211C200000/>



「やすがわMIZBE基地」ミニ三上山 展示パネル（野洲川・三上山）
Photo: Nataumi Kinugasa



事例：こどもの森、東京都練馬区
<https://nerima-kodomonomori.com/>



使い方アイデア

- 防災体験ができる。
- 土木研修などに利用できる。
- ミニ三上山で芝すべりや景色を楽しめる。
- レクリエーション、星空体験、キャンプなどのイベントを実施できる。
- 防災用土砂、放水路、落差工、北流、南流の歴史など施設や地域について学べる。
- 幼稚園、保育園児でも安全に転がれるスロープがあるなど、整備も工夫する。

など

6. エリア別の運営・利活用方針

6. 環境保全・共生エリア（高専敷地を含む）

方針

高専と連携しながら、森の環境を守り・育み次世代に豊かな環境を受け継ぐと共に、保全・共生の活動や環境学習等を通して学ぶ



● 憩いの場がある

- 木がたくさんあり、木陰がある
- 休憩できる場所がある

使い方アイデア

- 憩いの場として誰でも気軽に自然に親しめる。
- こども主体で遊べる場所になる。
- 自然インストラクターによる自然体験など学びのプログラムが実施できる。
- NPO、企業等による、小中学生向けの動植物昆虫の生態・環境調査学習ができる。
- 自然保全団体が、中高生に森や河辺の整備体験を行う。
- 子育てサークルが、親子で森の観察会を行うことができる。
- 上記のような活動をしたい人が森を自由につかうことができる。

など



事例：チャイムの鳴る森、奈良県
<https://chai-mori.com/>



Photo: Natsumi Kinugasa



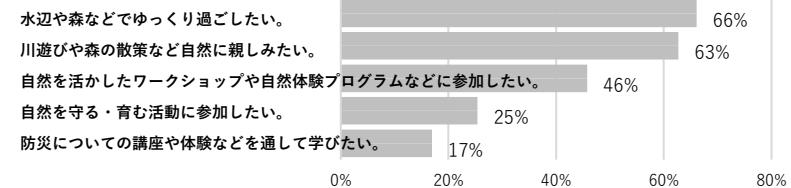
Photo: Natsumi Kinugasa



Photo: Natsumi Kinugasa

「やすがわMIZBE基地2025」水辺と森の探検スクール
やす緑のひろば 森の整備について学ぶ体験

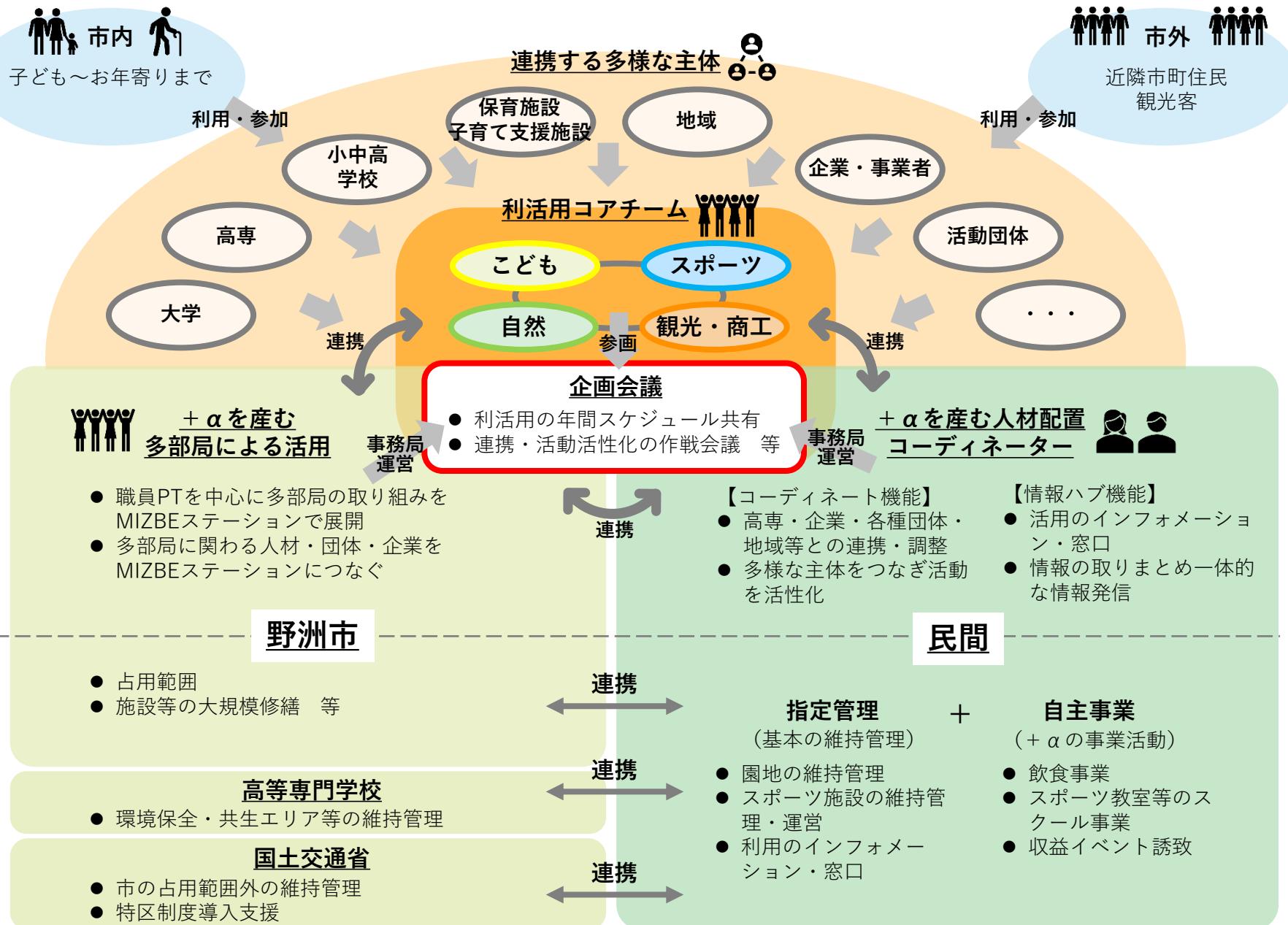
Q. あなたは「野洲川MIZBEステーション」をどんなふうに利用したいですか。
【自然】（やすがわMIZBE基地2025来場者アンケート）n=59



7. 運営体制のイメージ

利活用運営

維持管理



8. オープンまでのスケジュール

2028年の野洲川MIZBEステーションのオープンに向けて、ハード整備と合わせ、利活用の仕組みや体制もオープン前から検討します。

| | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 |
|------------------------|------------------|-----------------------|--------------|----------------------------|
| ハード整備 —設計・施工 | 公募準備 | 公募 | 設計・施工 | |
| ソフト —管理・運営者 | 管理運営体制の検討 | 公募 | | 野洲川MIZBE ステーション オープン |
| —利活用の 仕組み・体制 | 検討部会 | 仕組み・体制の検討・立ち上げ | 運営準備 | |

※こども意見も含めて、
具体的な仕組み・体制等
について検討

9. 検討経緯

| 検討 | 日時 | 検討内容 |
|--------------------------------|---------------------------|--|
| 第1回検討部会 | 2025年3月18日 18:00-20:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー紹介 ・野洲川MIZBEステーションかわまちづくり検討部会について ・野洲川MIZBEステーションの機能・役割について ・意見交換：野洲川MIZBEステーションで大切にしたいこと、期待すること |
| 第2回検討部会 | 2025年6月4日 18:15-20:15 | <ul style="list-style-type: none"> ・野洲川MIZBEステーション検討状況の共有 ・第1回振り返りと野洲川MIZBEステーションの運営の目的 ・具体的な取り組みから施設のあり方を考える<グループ議論→全体共有> グループ A：自然・子ども B：スポーツ・アクティビティ C：観光・商工 ・社会実験の方向性の共有 |
| 検討部会グループ会議B班 (スポーツ・アクティビティ) | 2025年7月15日 15:30-17:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備の検討状況について説明後、意見交換 |
| 検討部会グループ会議C班 (観光・商工) | 2025年7月17日 14:00-16:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備の検討状況について説明後、意見交換 |
| 検討部会グループ会議A班 (自然・子ども) | 2025年7月17日 18:15-20:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備の検討状況について説明後、意見交換 |
| 第3回検討部会 | 2025年8月5日 18:15-20:15 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2回会議・グループ会議の振り返りと野洲川MIZBEステーションの検討状況の共有 ・運営方針(たたき台)の共有 ・議論<グループ議論→全体共有> 議題① 水防センターのあり方について考える 議題② 運営体制について考える ・社会実験の共有 |
| 社会実験 「やすがわMIZBE基地2025」 | 2025年9月21日 10:00-16:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの実施・検証 |
| 第4回検討部会 | 2025年10月8日 18:15-19:45 | <ul style="list-style-type: none"> ・第3回会議・社会実験の振り返り ・運営方針(素案)について意見交換 ・今後のスケジュール(プロジェクト全体) |